

令和6年度 後期入学式 式辞

夙川の桜の葉も山吹色に色付きはじめ、朝夕の風にも秋の気配が感じられる爽やかな今日の佳き日、PTA会長様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご出席を賜り、令和6年度兵庫県立西宮香風高等学校後期入学式を挙行できますことは、私ども関係者一同、この上ない喜びであり、感謝に堪えません。本校の教職員を代表し、心から御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました14名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。本日、みなさんが門をくぐった兵庫県立西宮香風高等学校は、平成13年に全国でも最先端の多部制単位制高等学校として、ここ西宮の地に誕生しました。桜の名所である夙川の河口に広がる香櫨園浜の風が香る「香」と、多部制単位制高校という弾力的な教育課程を生かした新しい学びの「風」が広がることを期待して、「西宮香風」と名づけられました。本年はその創立から24年目を迎え、すでに3,677名に及ぶ卒業生が未来に向かって飛躍し、巣立っています。本校は「多様性」を大切にしており、様々な個性や年齢、生活環境、将来の夢も異なる生徒が共に学ぶ学校です。そのような環境の中で、皆さんには自分らしさとは何かを考え、自分だけの夢を見つけていただきたいと思います。

さて、社会は今、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。また、急激な少子高齢化が進む中で、成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されています。こうした世の中を背景に、本日本校に入学する皆さんに2つお話をさせていただきます。

1つ目は、これからの社会を生きていく上で、身につけなければならないものについてです。2022年5月に経済産業省は、今後の人材政策について「未来人材ビジョン」を公表しました。その中には、これからの社会を切り開くために必要な4つの能力が示されています。1つ目は「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」、2つ目は「夢中を手放さず、1つのことを掘り下げていく姿勢」、3つ目は「グローバルな社会課題を解決する意欲」、そして4つ目は「多様性を受容し、他者と協働する能力」です。

本校は個を尊重し、多様な価値観を認める人材の育成を重視し、また自分が夢中になれることを支援する教育体制があります。つまり、「未来人材ビジョン」の4つの能力のうち、2つの能力を育てる教育活動が顕著です。ですから、入学後は他人を尊重し多様性を受け入れる気持ち、つまり、常に感謝の心を持ち、他を思いやり、支え合い、応援する気持ちを持ってほしいと願っています。そして、自分が夢中になることを見つけて、精一杯取り組んでください。

2つ目は、皆さんの高校生活についてです。これからの高校生活は希望に満ちており、多く

の夢が皆さんを待っています。しかし、高校生活は苦しいとき、辛いとき、挫けそうになることもあるかもしれません。そんなときに大切なことは「どうせ無理」という言葉を使わないことです。「どうせ無理」ではなく「どうすれば」を常に考えてください。本校の1階には、卒業生のパネルが掲示してあります。その中には、医者や科学者、東京パラリンピックの銀メダリスト等、多方面で活躍する卒業生の言葉が掲載されています。あの卒業生たちも最初、周りから見れば届きそうもない夢を持ちました。おそらく周りから「どうせ無理」という言葉をかけられた可能性があります。しかし、あの方々は全員「どうせ無理」ではなく「どうすれば」を追求しました。その結果、夢を現実のものとなりました。本校に入学する皆さんには、常にこの考えを持ってほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日より皆様の大切なお子様をお預かりすることになりました。私たち教職員は、お子様が安心して学べる環境を提供し、生徒一人ひとりの大きな可能性を引き出すために、持てる力を最大限に発揮し、教育活動に取り組む所存でございます。どうか本校の教育活動に対するご理解ご協力、そしてご支援を賜りますようお願いいたします。

本日、入学されたみなさん全員が本校で充実した日々を過ごされ、人生の確かな礎を築くことを祈念して式辞とします。

令和6年10月1日

兵庫県立西宮香風高等学校長

桑田 圭介